

第41回中国総合バスケットボール選手権 (兼)全日本総合バスケットボール選手権大会中国地区予選会															
日 時	2014年11月9日		女子 決勝												
会場名	笠岡総合体育館		( A )コート												
○	環太平洋大学 (岡山県)	112	{ <table border="0"> <tr><td>24</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>28</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>29</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>31</td><td>—</td><td>9</td></tr> </table> }	24	—	16	28	—	17	29	—	11	31	—	9
24	—	16													
28	—	17													
29	—	11													
31	—	9													
			53 クリスタルBBC (島根県) ●												
審判名	主 審	望月 公平	副 審 皆川 義紀												

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
山田 真帆(C)	4	0					伊藤 彩	4	0				
松山 綾子	5	-					中村 純子	5	19	1	7	2	2
齋藤 ひかり	6	7	1	2		2	持田 さやか	6	0				1
二宮 瀬莉奈	7	-					岸本 悠花	7	3	1			
八木 柚香	8	20	2	6	2		山野 聡子	8	2			2	1
畝本 奈穂	9	10	2	2		2	神門 美紀	9	4	1		1	
時任 由依	10	20	1	8	1		下邊 美穂	10	0				1
新垣 楓	11	-					森山 育美	11	-				
前田 奈々	12	8		4			山本 真紀	12	-				
中島 麻紗子	13	17	5	1		3	秦 あかね	13	17		8	1	3
岩本 はる菜	14	-					坂元 佳世	15	4		2		
山崎 瑛奈	15	2		1		1	岩田 佳子	18	4		2		
宮川 瞳	16	19		9	1	3							
須川 奈保子	17	9		4	1	1							
筒井 悠月	18	-											
合 計		112	11	37	5	12	合 計		53	3	19	6	8

## 戦 評

1Q 両者ともにマンツーマンでスタート。IPUは#8のターンシュートで先制。クリスタルも#11のゴール下で返すがIPUは#8の3P#11のゴール下、#10の速攻と立て続けに得点を重ね、9-2と主導権を奪ったところでクリスタルは残り5分45秒でT. O. をとり、その後#5がミドルを決めた所でDFの当たりを強め#13のミドルや#5もドライブやJSを決め10-11と1点差に詰め寄るが、IPUは#10がゴール下、#12のドライブ、#8のJSなどで得点を重ね24-16でIPUがリードして終わる。

2Q IPUは#13の3Pや#12の速攻で引き離しにかかる。対するクリスタルも#13の連続ゴールからDFも当たりを強めるがIPUは#10や#8がDFの裏を突き、#15のターンシュートなどで得点を重ねる。クリスタルは#13の連続ゴールや#5の3Pなどで得点を重ねるがIPUも#13の3Pやミドル、#6のドライブなどで対抗しあとは一進一退の攻防となり52-33でIPUがリードして終わる。

3Q IPUは開始早々シュートチェックから速攻を次々と出し#10や#15の速攻、ドライブ#8の3Pなどで次々と加点していく。一方クリスタルは#13を起点としてOFを組み立て、#13のパスカン、FTも沈めた所で再び当たりを強めるもののIPUは落ち着いてボールを運び#16がミドルやパスカンを決め、#10や#13も3Pを決めるなどしてリードを広げ81-44とする。

4Q IPUは#6や#9の連続3Pや#18、#17もゴール下を支配し点差を広げようとする。対するクリスタルは#5が体勢を崩しながらドライブを決めるがIPUは#18や#17がゴール下を頑張り97-46としたところでクリスタルT. O. をとる。IPUはDFを3-2ゾーンにし#13のミドルや3Pなどでさらに得点を加え、クリスタルは#7や#9の3Pが散発的に入るのみで点差はさらに広がり112-57でIPUが2年ぶり6回目の優勝を飾った。